



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2017～18年度 テーマ

プロバスだより

第272号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2018年7月12日発行

継続は力なり！

プロバスクラブの道に終わりなし
生涯現役でクラブライフを楽しもう

編集・発行：情報委員会

第 272 回例会

日 時：平成 30 年 6 月 14 日(木) 16:00～17:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：51 名 出席率 81%

(会員総数 69 名 休会 6 名 欠席 12 名)

※始めに、武田会長の提唱で、5 月 25 日に亡くなられた川村真会員を偲び、全員で黙祷を捧げた。

1. 開 会

山口例会委員長

第 272 回例会を開催します。(資料確認)

2. 会長挨拶

武田会長

皆様こんにちは。梅雨に入り、気温のアップダウンが目まぐるしいので、体調管理にはご注意ください。

という私も 10 日前から風邪模様、長引いているので一昨日クリニック受診、たくさんの薬の処方が出ました。

昔は、数種の顆粒を調合して、一回一袋で済んだのですが、最近は薬ごとにタブレット（錠剤）になって、数種類で数が多いと一ぺんに飲みこむのに一苦労です。薬剤の処方について改善してもらいたいですね。

6 月例会、年度最後の例会です。月並みな表現ですが「光陰矢の如し」、昨年 7 月には正直 1 年大変だなあ、という感触でしたが「時の流れに身を任せ」ておりましたらこの日になりました。

「継続は力なり」のスローガンの下、周りの理事各



位の支えがありプロバスクラブの運営を無事に終わることができそうです。会員皆様のご協力に対しても御礼申し上げます。

新入会員がお二方入会されました。お仲間として交流を深め、プロバスライフを楽しんで頂きたいと思います。

さて、本年度を振り返ってみますと、一言で表せば「財政健全化取り組み」の年度といえます。諸経費・印刷費削減他、自分達でできることは自主的に調達するという努力により、予算内で実行ができる見通しです。これからもこの奉仕という意識を念頭に活動を推進するようにしてゆければと思います。

予算実績の詳細は、来月の総会にてご報告となります。

本日は、次年度の体制についての発表があります。

ご承知のように、運営細則第 2 条により、会員はいずれかの委員会・プロジェクトに所属することが定められています。委員会・プロジェクトの人員バランスの関係から、ご自分の意図しない所属になるかもしれません。原則は所属の委員会での活動ですが、事業活動の繁忙期においては、委員会の垣根を越えてお互いに協力する体制で進めて頂きたいと思います。

現状の課題は、会員の高齢化に伴う会員数の減少です。本年度、年度末で退会者は 6 名、休会者は 4 名、多くはご自身・ご家族の健康上の理由です。新入会員は 3 名、平均年齢より若くこの点で救われております。先の年度で、「一人一推」の掛け声がありましたが、今後も続けてゆきましょう。改めてこの一年間のご支援、ご鞭撻、誠に有難うございました。

3. ハッピーコインの披露

馬場副会長からハッピーコイン 17 件の披露があった。(7 ページに掲載)

4. 新入会員紹介

お二人の新会員が入会されました。

塚本吉紀さん（杉山会員の推薦；教育一筋にやってこられ、現在八王子学園理事長、いずれ八王子「宇宙の学校」の会場にとお願い中）

深谷正徳さん（土井俊玄会員の推薦；読経会のご縁、最近愛知県から転居されたばかり。教育一筋、特に障害児教育） 早速、寄稿を頂きました。

塚本吉紀新会員 <よろしくお願ひ致します>



定年とってよいのでしょうか、そこまで、それぞれの社会でご活躍され、第一線は引かれ遠くからご支援・ご助言をされるような方の多いこのクラブ、そしてかつては社会の指導者であり、実力者であった方々で組織されている素晴らしいプロバスクラブに、杉山氏の推薦を頂いたものの、私のような者が入会させて頂いてよいのかといった戸惑いもありましたが、喜んで入会したいと思います。そして、これまでに皆様が築かれたこの会に少しでも役立つには如何にすべきかと緊張をしております。よろしくお願ひ致します。

入会早々バースデーカードを頂くとと言う嬉しい出来事にまず吃驚しました。さらに、ハッピーコインで何回となく歓迎のお誘いのお言葉を頂き有難うございました。

私は教育の道を歩み、それに関わる海外での教育、帰国時の教育等に長く、深く関わってきました。日本社会は人口問題がいろいろ問われていますが少子化による影響を大きく受け、環境が変わろうとしているのが、今の教育産業界ではないでしょうか。

今の子育て世代の方は子どもの将来への設計に関する教育よりも、母親が自分の能力を活かす生活環境を重視する方向にあるように思います。この考えも大切には思いますが、それが絶対という今の社会の動きに私は疑問を持つのです。子どもには幼少期に教えを受けたり、体験をしたり、自らの学びの時間を持たねばならないことが多いのです。教育に関わってきたものには、家族愛・家庭愛の大切さと共に将来日本を支えるに、小さいときに大切とされる非認知能力の育成や家族愛の中で育てねばならないはずの子どもの教育が、この方向、この歩みでよい

のかに大きく疑問を持つのです。

この会に入れていただいたのですから、自分をも楽しめる機会と場を自ら選択したいです。初めてお会いしたこの会の多くの皆様方から感じ取った「皆さんの豊かな発想、創造、を生む力」この根源はどこにあるのかを学び捉えたい。さらに、自分の活躍する方向や目的をしっかりと持ち活動する超年齢の“人生の生き方”をお教え頂きたく思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

深谷正徳新会員 <障害児教育への思い>



「なににごとぞ 育てそこねて生まれつき」これは世界的に有名な能力開発法であるスズキ・メソッドの創始者鈴木鎮一先生の言葉です。私は長年障害児教育にたずさわってきてこの言葉の重さを実感します。

これまで「生まれつき」という言葉でどれほど多くの障害児の尊厳が損なわれてきたことでしょうか。生まれつきとはどういうことなのか。出産時のトラブルが原因であるとしたらそれはどうなのか？胎児期に起因するとすればどの時期からをいうのか？それはともかくとして「生まれつき」とされた障害児は「読み書きよりも作業ができることが大事」ととくに知的教育を受ける機会が与えられてきませんでした。

鈴木先生は「人は環境の子なり」ともおっしゃいます。だれでも生まれ育った国の言葉を使います。正真正銘の生まれつきであるダウン症児が私の英語よりもはるかに上手に日本語をしゃべっているのです。良い環境に置き、適切な教育をすれば「生まれつき」として諦められていた子ども能力を伸ばすことができるのです。

私はこれまでに、医師から絶望的な宣告をされながらも立派に成長していく子どもの姿をたくさん見てきて、どの子も伸びる可能性があることを確信しました。どこまで伸びるのかといえば、条件が整っただけ伸びます。そういう条件を整えるのが大人の努めです。徐々に専門家の意識が変わってきましたがまだまだです。

たとえ障害があっても、長い歴史の中で生み出されてきた豊かな文化に触れることによってより人間

らしく育っていくはずです。障害児教育とは指導法あるいは学習法の問題であって、目的は健常児に対する教育と何らかわるところはないはずです。

5. パースデーカー贈呈

武田会長より池田会員手作りのパースデーカーが6月生まれの会員に贈られました。



写真は左から山形忠顯、持田律三、一瀬 明、廣瀬智子、塚本吉紀、志村高会員と武田会長(敬称略)

6. 次年度人事構成の発表

馬場副会長

「2018－2019 年度 理事分掌並びに委員会等及び会長委嘱 人事発令」の文書の通り、新理事との会合で体制が決定しました。

新役員分掌 (敬称略)

会 長	馬場 征彦
副会長	飯田富美子
幹 事	寺田 昌章
副幹事	大澤 敬之
例会委員長	池田ときえ (副)野口、山口
情報委員長	持田 律三 (副)河合、佐々木秀
会員委員長	岡本 宝蔵 (副)戸田、有泉
研修委員長	有田 進治 (副)竹元、齋藤
地域奉仕委員長	一瀬 明 (副)永井、内山
交流担当	田中 信昭
宇宙の学校	下山 邦夫 (副)下田 泰造
会計監査	根本 洋子、 岡部 治
会長委嘱 (全日本プロバス協議会関係)	立川富美代

7. 幹事報告

内山幹事

(1)お二人の方を新入会員としてお迎えすることが出来ました。しかし残念ながら期末で、澤渡進会員、川村真会員、土井俊雄会員、山崎光子会員が退会されました。

塚本会員は宇宙の学校プロジェクト、深谷会員は研修委員会に所属します。それぞれの場での活躍を期待しております。

(2)メールアドレス登録のお願いです。連絡方法も手間がかからず行なえますので、出来るだけ多くの会員の皆様方のご協力をお願い致します。

(3)プロバスクラブの事務用電話の件ですが、使用頻度が少ないため今年度末を以って廃止することといたしました。

(4)退会者の件ですが、退会理由はきちんと確認しておいてください。今後のクラブ活動に少しでも役立てたいと考えております。

最後になりますが、財政事情の緊迫した時期に幹事を任されましたが、何とか財政改善の目途が立ちつつあります。これも会員皆様方からいただいたご協力の賜物と深く感謝しております。一年間有難うございました。



8. 各委員会活動報告

(1) 例会委員会

山口委員長

例会の出席状況の報告があった。(前出)

(2) 情報委員会

田中副委員長

・プロバスだより 271 号をお手元にお届けしました。今回は橋本会員編集になるものです。

・「第 22 回生涯学習サロン」の抄録冊子が完成し、本日お届けすることが出来ました。今回は 30 ページ (従来は 46～48 ページ) に圧縮しましたが、内容は従来と余り変らないもので、印刷費の大幅削減ができました。

・今期の情報委員会は、期半ばで委員長が休会という突発事態が発生しましたが、委員各位及び会員の皆様のご協力のお陰で何とか無事切り抜けることが出来ました。感謝。

(3) 会員委員会

戸田委員長

1 年間、皆様のご協力誠に有難うございました。

(4) 研修委員会

竹元委員長

今年度の研修委員会としましては、卓話を 8 回実

施しました。講師の皆様には感謝申し上げます。また野外研修は「八王子から学ぼう」ということで、八王子所在の B&S コーポレーション、リオンテクノ、日野オートプラザ、戸吹クリーンセンターを研修視察いたしました。

池田副委員長をはじめ委員会の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

(5) 地域奉仕委員会

永井委員長

年度末ですので、生涯学習サロンについて振り返っておきます。

開講式・閉講式の特別講話は橋本五郎氏（荻島会員の紹介）、竹元正美会員にお願いし、非常に好評でした。但し、

開講式・閉講式をもう少し簡易化できないかという意見もあり、課題も残りました。

サロンは 3 週 12 講座、外部講師 2 名で行いました。どの講座もほぼ良好な評価を得ました。

野外サロンは足利へ行きました。足利は 2 回目ということもあり、プロバス会員の参加者が 27 名と少なかったのが残念でした。ただ、プロバス会員の年齢構成を考えるとやむを得ない結果とも思っています。また、参加された一般の方からの評価は非常に高いものでした。プロバス会員の年齢構成を考えたとき、野外サロンのあり方について、一考の時期に来ているのかもしれません。

さよならパーティーは、当日の参加者が多く、多少窮屈な思いをさせていただきましたが、楽しく終わることができました。

予算面では、本部予算が厳しい中、如何に収入増、経費減を図るかが課題でした。収入増は、参加者増を図るしかありません。今年度は幸い、一般会員が 126 名の多くなりました。新参加の方は、全員が友人・知人の紹介でした。口コミが如何に重要かということですので、次年度も協力をお願いします。プロバス会員の参加登録者は 58 名と減少しました。プロバスクラブ会員の増員は、サロンだけでなく、色々な活動でも急務と考えます。

経費削減では、抄録冊子のページ数を少なくして、かなり減額しました。話の内容を 1 ページにまとめ



て頂いた話し手の皆様には感謝します。同じく、編集に当たられた情報委員会の皆様にも感謝します。

本部会計からの補助金の削減をするためには、さらなる収入増・経費削減が必要です。本年度は、皆様の協力のおかげで、無事に終了しましたことを感謝いたします。

(6) 交流担当

浅川担当理事

特になし

(7) 宇宙の学校

下山リーダー

6 月 10 日 東京工科大学会場
＜開校式＞

- ・開校宣言 「宇宙の学校」
後援会長 杉山友一
- ・挨拶 東京工科大学応用生物学部 西野智彦准教授
- ・受講ガイダンス

子ども/宇宙/未来の会 山下法昭先生

- ・実験工作 「ホバークラフトを作ろう」
- ・挨拶 八王子「宇宙の学校」実行委員長
八王子市教育委員会教育長 安間英潮
- ・参加者 86 組（登録 90 組の 96%）



作ったぞ、ホバークラフト さあ、走れ！！

9. 同好会活動報告

・写真同好会

矢島一雄

今年の春の異常ともいえる気候は、予め作られて



いた各地の花暦など、
いとも簡単に反故同然にしてしまい、花を追う求める人にとっては、非常に厳し

い春となったことと思います。我が写真同好会でも、予定されていた撮影ツアーは、中止になったり、催行しても花が既に散ってしまったりと、さんざんなシーズンの幕開けとなりました。

その様な中で、第二回目を迎えた映像による作品の発表会は、些か作品不足の感がしないでもなかったのですが、次の機会には、皆様に少しでも感動を与えられる作品が準備できたらと思っております。



10. プロバス賛歌斉唱

11. 閉 会

馬場副会長

本日は、嬉しいことに2名の新会員をお迎えすることができました。皆様の暖かい気配りのもと、早く当クラブに馴染んで頂けることを期待します。

本例会は今年度の最後の例会であり、武田会長・内山幹事を始め役員各位の1年間のご苦勞に感謝申し上げる次第です。なお、この後には年度最後の懇親会があります。皆さんで楽しみください。

暑さが募る時期になりますが、7月例会にもお元気でご出席ください。

懇 親 会

例会に続き、年度末恒例の懇親会が17時30分から開催された。

根本照代会員と鈴木はるみ会員のお二方の司会・進行で、始めに武田会長の挨拶があり、岩島前会長の音頭で乾杯が行われ、会食・歓談となった



会食・歓談



お楽しみゲーム

ビンゴで盛り上がった。早くにリーチがかかっていながら、最後まで上がれなかった人、急ピッチで完成したラッキーな人、最後の商品はジャンケンで。



各委員会スタッフ挨拶（今年も頑張りました。）

情報委員会



交流担当



会員委員会



「宇宙の学校」



研修委員会



例会委員会



地域奉仕委員会



カラオケタイム



会員の輪をいつまでも！

「夕焼け小焼けの歌」を皆で仲良く、手を繋いで合唱のあと、馬場副会長による閉会の挨拶で今期末の懇親会は閉幕となった。



ハッピーコイン

◆「宇宙の学校」新年度6月10日から始まりました。出だしはまずまずです。万歳！ 下山邦夫

◆シニアダンディーズの応援・支援をしてくださるサポーターも増えてきました。少しでも多く練習に励み益々地域に奉仕したいと思います。7月7日は「檜の里施設訪問演奏」を行います。立川富美代

◆新しい会員をご紹介できるので、大変嬉しいです。深谷さんを宜しくお願いします。土井俊玄

◆おめでとう。上から4番目の孫娘が来年からの就職が決まった。目出たし！目出たし！！ 濱野幸雄

◆皆様、一年間ご支援有難うございました。

武田洋一郎

◆二度目の地域奉仕委員長、無事に終わりました。ご協力ありがとうございました。永井昌平

◆今年後半は長野を堪能します。

8月・八ヶ岳山麓ペルセウス流星群観察、・白馬村「夏の終りコンサート」出演と白馬五竜植物園、

10月・黒部・立山旅行 11月・伊那「アルプス男性合唱祭」出演 八木啓充

◆武田会長年度の理事役員の皆様、一年間お世話になりました。 杉山友一

◆新しいお仲間として、塚本吉紀（よしのり）さんをご紹介申し上げます。 杉山友一

◆1年間ありがとうございました。 戸田弘文

◆大学の同窓の塚本さんが入会されます。大いに活躍をしていただけたと思います。宜しくお願いします。 高取和郎

◆武田年度の役員様お疲れ様でした。新年度の役員様よろしくお願い致します。 飯田富美子

◆武田会長年度の最終例会を祝して！ 馬場征彦

◆長いような短いような一年間でした。皆様方のご協力により幹事としての役目終了できました。

内山雅之

◆例会委員会です。一年間お世話になりました。ご協力有難うございました。 山口三郎

◆4月20日に三多摩（日野・多摩・八王子）プロバスの合同ゴルフ会がありました。7位までに八王子が4名入るという活躍ができました。八王子は頑張りました！！HAPPY！！今後も三多摩のリーダー役で頑張ります。 持田律三

◆本日、情報委員会作成の学習サロン抄録小冊子を参加者の皆様に送るべく封筒詰め郵送をいたしました。参加してくれた一人一人に感謝しつつハッピーな気持ちで。 一瀬 明

寄稿

・古典芸能鑑賞同好会 6月例会 杉山友一

今月の例会は、飯田会員がお世話役となって、第93回歌舞伎鑑賞教室への参加となった。会場は半蔵門の国立劇場で6月15日（金）夜の部なのだが、当日の企画は初めから外国人対象の設えで、一階席には日本人はまばら状態、しかも若い外国人たちが溢れていて彼らの関心の高さに驚いた次第だ。さて、プログラムは企画にしたがって、まずは二代目坂東巳之助が通訳の女性を伴って登場し、外国人のために舞台装置（特に花道の役割など）の仕掛けや、高座に座る義太夫語りの太夫さんたちと三味線の役割、舞台下手の隠れたお囃子部屋からの音楽効果の様子などを、一部実演を交えながら分かり易く解説、更には会場から2名の外国女性を舞台に招き、幾つかの基本的な歌舞伎の所作、例えば、摺り足や見得の

切り方、付け打ちの場面、更には扇子を用いて横波や滝などを表現する様子など、自身の演技を彼女らに真似させながら 40 分ほど解説をした。和やかな雰囲気にも包まれた会場からの笑いと拍手のなかで、俄か仕込みの鑑賞準備が終わった。事は既に歌舞伎にすっかり馴染んでいる我々ではあったが、図らずも肩の凝らない楽しく且つ有意義な教室参加と相成った。ここで休憩 20 分、次は本番と告げられた。

さて、舞台は文殊菩薩の霊地清涼山に架かる「石橋」(能の題材が原典)とされ、百獣の王ライオンに似た伝説の動物とされる獅子の親子の物語、名作「連獅子」である。当たる役者は、三代目中村又五郎演じる親獅子と、四代目中村歌昇演じる子獅子で、62 歳と 30 歳の実の親子が「子落とし」の故事を演じてみせる。前半の見せ場は、親獅子が子獅子を険しい谷底へと蹴落とし我が子に試練を与える場面で、三味線・義太夫の緩急自在の調べを背景に激しく交錯する親子の心模様がぴたりと息の合った二人の舞踊で表現される。その感動的な前場の 40 分間を経て、続く間奏時間帯では、狂言の演目「宗論」を舞踊化した間狂言(あいきょうげん)が演じられた。浄土宗と法華経(日蓮宗)という異なる宗教の僧の口論がコミカルに描かれた出し物で気楽な時間帯(20 分)であった。さてそして、いよいよ前半の親子二人の狂言師は、満を持して獅子の精へと扮装変えして後半納めの舞台に登場となる。まずはその衣装、文字通り豪華絢爛とはこのことか、まさしく究極の衣装芸術の感がする。舞台は鳴り物の演奏によって始まり、「静」の舞踊からやがて激しく勇壮な「動」の舞踊へと変容していく、行きつく先は広く世に知れた例の豪快な毛振りの舞踊だ。解説書によれば、「親子の獅子の精は、牡丹の花と戯れ、毛を振ります。毛を前に垂らして左右に振る「髪洗い」、左右の舞台床に叩きつける「菖蒲叩き」、円を描くように鮮やかに回転させる「巴」などの様々な毛振りが次々と繰り出されます、と記されている。どっしりと構えた白毛の親獅子の精(又五郎)と、凛々しく小気味良い赤毛の精(歌昇)の、文字通り長毛を振り乱しての激しい舞踊は、百獣の王から生きるエネルギーを注入されたような爽快な気分を齎してくれた。今日もまた、同好会行事を通じて、歴史と伝統に裏打ちされた古典の底力に感じ入った次第だ。

俳句同好会便り

私の一句～六月の句会から

河合 和郎

早くも梅雨が明けた。6 月中の梅雨明けは観測史上初めてとのこと。例年に比べ 3 週間も早いというから、これは異常事態。俳句子も混乱気味。

場所取りにすき間かき分け鮎解禁 立川富美代

今年は鮎の魚影が異常なほど多いとか。太公望たちの意気込みも一入。先ずは場所取りに苦勞の一句。

校庭のビートダンスや若葉風 馬場 征彦

力強いビートのリズムが聞こえてくるようだ。簡潔な表現が躍動感を生む。若葉風の季語もいい。

新緑や命支える三分粥 渋谷 文雄

新緑の生命力にあやかりつつ、三分粥の闘病。俳句に明日の夢と希望を託して筆を握る覇気に感動。

杉新樹日々ぐんぐんと高尾山 山形 忠顯

杉の新樹の成長ぶりを詠んだ。「日々ぐんぐん」に生命力の躍動が迸る。高尾山は作者にとっては裏山。

夏至線にタッチし戻る日脚かな 東山 榮

季節の変わり目を「タッチし戻る」とは言い得て妙。この日を境にというニュアンスがいい。佳句。

朱に染まる北の大地や麦の秋 矢島 一雄

麦秋は夏の季語。大きな景が眼に浮かぶ。北の大地の実りの季節が力強く描けた。佳句。

これほどの緑吐き出す大地かな 池田ときえ

中七の措辞は万緑の迫力を表現して秀逸。大地の力と太陽の恵みが命の源の緑を生み出す。秀句。

紫陽花と競ふ衣や僧の列 田中 信昭

高尾山の勤行の時の僧列が正にこれ。紫・緑・朱など衣は意外とカラフル。紫陽花との対比がいい。

揚羽蝶喜々と舞ひ立つ雨上がり 飯田富美子

雨上りを待っていたかのように蝶が群れ飛ぶ。「喜々と舞い立つ」の措辞に作者の優しい眼が。

夕焼空影が教へるかくれんぼ 河合 和郎

昨今は外で遊ぶ子供たちの姿を見かけなくなった。「隠れんぼ」に懐かしさを覚える世代はもう少数派。

編集後記：内容が豊富で今号は 8 ページとなりました。それでも掲載できない写真とかあり、ご容赦ください。 佐々木秀勝